

森林やまがた

No.223

2026. 5



山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。



目次

令和7年度山形県森林管理推進協議会 林業事業体経営体質強化研修会・ 村山地域研修会を開催……………	2
やまがた木造設計マイスター認定！……………	3
令和8年度 補助事業のご紹介 『森林サービス産業創出事業費補助金』……………	4
大切な森林を守るため山火事防止を……………	4
やまがた絆の森協定締結式……………	5
みどりのページ 山形県緑の少年団活動審査会で 鶴岡緑の少年団が最優秀賞……………	6
「緑のふるさとづくりセミナー」を開催……………	6
里山林活性化による多面的機能発揮 対策交付金事業 活動報告会……………	7
山形県分収林事業推進協議会の開催……………	8

国有林から スギの特定苗木を用いた林分密度実験林の 設定について……………	9
普及情報 令和8年度森林研究研修センターの 研修計画について……………	10
フォレスト通信 農林大学校・専門職大学 から 未来のフォレスターたち……………	11
山形県森林総合監理士会について……………	12
「村山地域山火事防止啓発ウィーク」を実施……………	13
スマート林業推進に向けた取組み……………	14
「庄内地域木材資源需給拡大 コンソーシアム会議」研修会の開催……………	15
鼠ヶ関ツリーサービスが庄内地域 農林水産業若者賞を受賞……………	15
山形県の古木・名木……………	16

(表紙写真: 鶴岡公園のソメイヨシノと大寶館 (鶴岡市指定有形文化財))

令和7年度山形県森林管理推進協議会 林業事業体経営体質強化研修会・村山地域研修会を開催

◆はじめに

森林経営管理制度の円滑な実施を図るため、森林整備の担い手である林業事業体の経営体質強化を目的とした研修会を開催したので報告します。

また、県では地域の実情に応じた取組みを図ることを目的に、県内4地域それぞれで地域協議会及び研修会を開催しています。今回は村山地域研修会についてあわせて紹介します。

◆林業事業体経営体質強化研修会

第2回林業事業体経営体質強化研修会を3月3日に県土地改良会館において開催し、林業事業体や県・市町村等からWeb参加を含め30名の参加がありました。(第1回研修会は令和7年7月7日に実施。森林やまがたNo.219参照)

今回の研修会は県再造林推進機構と合同開催の2部構成とし、第1部は再造林加速化対策研修会として、信州大学農学部特任教授の加藤正人氏から「スマート林業で地方を元気に」森林地籍調査『全国標準の町村モデル』で地域振興」と題し講演していただきました。

講演では、地籍調査は宅地と農地が優先され、全国での林地の進捗率

は45%程度と遅れていることから、課題解決を図る長野県の取り組みが紹介されました。

長野県木曽町では、信州大学などと連携して、ドローンとAI技術を活用した森林境界明確化と地籍調査を一体的に行っており、調査期間と費用の大幅な短縮が期待されています。

第2部の林業事業体経営体質強化研修会では、フォレストメディアワークス株式会社の植崎達也氏から「デジタルのサプライチェーンマネジメントシステムはなぜ上手く行かないのか？」原木流通の基本と特殊性、主伐と間伐のビジネスモデルの違いを考える」と題し講演していただきました。

講師の植崎氏には、これまでも林業事業体の組織経営や「スマートな」林業の必要性などについて、継続的に本県で講演いただいております。今回は再造林加速化対策研修会との共催により、木材産業事業体の方も参加していることから、原木流通にかかわるサプライチェーンマネジメントに関する内容をテーマとしていただきました。

講演では、林業事業体における現

場の課題や林業経営・組織運営の違いなどを話されたほか、原木流通が高度化している現状を踏まえ、素材生産者側でも流通を詳しく知り、どのようなビジネスモデルを構築するのか、など示唆に富んだ話がありました。参加者からは「現場での悩みを言語化してもらい、スッキリした」などの感想がありました。

◆村山地域研修会

3月6日、村山総合支庁において、市町村と林業事業体、やまがた森林と緑の推進機構、村山総合支庁森林整備課等の担当者計18名が出席し開催しました。

はじめに支庁担当者から航空レーザによる森林資源解析の活用について、県内や全国の解析状況の説明があり、福井市や新潟県村上市の活用事例が紹介されたほか、航空レーザ関係の林野庁補助事業の概要も情報提供されました。

次に、県内の活用事例として、同日に置賜総合支庁で開催された「スマート林業導入検討会」とオンラインで繋ぎ、置賜地域におけるリモートセンシング技術の活用事例などを学びました。

研修会の後半では、メジャーリーグで活躍する大谷選手が学生時代に取り組んでいたことで話題になった「マンダラチャート」を使ったワー



付箋紙に意見を書きだし
マンダラチャートに配置

クシヨップを行いました。2グループに分かれ、森林資源解析データを活用するために整理すべき問題点の洗い出し、解決策を討議し、各グループの代表が検討結果について発表しました。発表では、2グループともに人材の育成と情報共有に焦点を当て、課題解決への道筋を示す内容でした。参加者からは「他市町や事業体も同じ問題意識を持たれていることが分かった。情報交換ができて良かった」、「ワークシヨップは今後にも計画してほしい」などの感想がありました。

◆おわりに

令和8年度も各種研修会等を予定しています。森林経営管理制度の円滑な実施に向け、引き続き市町村及び林業事業体等の支援を行ってまいります。

〔県森林管理推進協議会〕

やまがた木造設計マイスター認定！

「山形県中大規模木造建築物設計者養成セミナー」の開催

【はじめに】

県では令和5年3月28日に、（一社）山形県建築士会および山形県木材産業協同組合と「木造建築物の設計・施工に係る人材育成等に関する木材利用協定」を締結しました。本協定の一環として令和5年度から「山形県中大規模木造建築物設計者養成セミナー」（以下「セミナー」）を開催し、修了者を「やまがた木造設計マイスター」（以下「マイスター」）に認定しましたのでお知らせします。



演習の様子

【セミナーの実施】



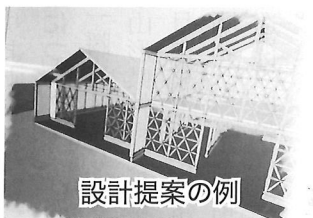
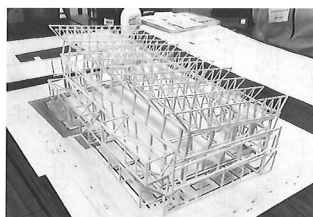
白鷹町への現地視察

セミナーは法政大学兼任講師の鍋野友哉氏をコーディネーターに、令和7年9月から令和8年3月までに計6日間で実施され、県内の一級建築士23名が受講しました。講師陣は日本の木造建築の第一人者と評される方々で、受講者からは中大規模建築の木造化に対する強い意欲がうかがえました。

演習では「県産木材を利用した直売所を併設したやまがた魅力発信施設」の設計提案を作成し、最終日に各班が設計案を発表しました。各案は地域性、経済性、集客性、耐火基準など法令順守の観点から検討され、斬新かつ実現性の高いアイデアが多数示されました。

【セミナーの一般公開】

今年は鍋野友哉先生による木造概論と、東京大学名誉教授・稲山正弘先生による木質構造概論の講義を「これからの木造建築を考える」講演会として一般公開しました。約30名の設計事務所、建設会社、市町村職員、県職員などが参加し、木造建築への理解と関心を深める機会となりました。



設計提案の例

【マイスターの認定】

修了式では、受講生を代表して（株）秦・伊藤設計の鈴木貞規さんに笠井森林ノミクス推進課長より修了証が手渡され、受講者23名全員が「やまがた木造設計マイスター」に認定されました。

【おわりに】

これまでの3年間で延べ70名のマイスターが任命されました。マイスターの主な役割は次の2点です。

①県産木材を活用した民間施設等の木造化・木質化に関する提案・相談

②県民に対する県産木材利用の普及・啓発



令和7年度認定 やまがた木造設計マイスターの皆様

今後、県産木材を用いた建築物がさらに増えることを期待しています。県としても、森林の持続可能な循環を目指し「やまがた森林ノミクス」を推進してまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕



※山形県ホームページ
「マイスター名簿等」

令和8年度 補助事業のご紹介

『森林サービス産業創出事業費補助金』



山形県HP

◆はじめに

森林サービス産業は、健康・観光・教育などの様々な分野で森林空間を活用した体験サービス等を提供することで、新たな雇用と所得機会の創出を目指すものです。トレーニングや林業体験ツアー、森林セラピー、教育旅行等、全国的に取組みが広がっています。

山形県でも、県内の森林空間等を活用した森林サービス産業の創出を推進するため、『森林サービス産業創出事業費補助金』による補助を実施しておりますので、ご紹介します。

◆補助事業の内容

- ①体験等コンテンツ整備事業
- ◎補助対象

県内の森林空間を活用した体験型のプログラム等を実施するための環境整備や準備等に要する経費

◎補助対象者

事業実施後の継続的な活動が見込まれる企業、法人、団体等

◎補助金額

補助対象経費の1/2以内
上限20万円

②体験型ツアー等実施事業

◎内容

県内の森林空間を活用した体験を主としたツアーやイベント等を実施するために要する経費

◎補助対象者

事業実施後の継続的な活動が見込まれる企業、法人、団体等

◎補助金額

補助対象経費の1/2以内
上限30万円

※総事業費から自己収入額を控除した額を超えることはできません。

◎申請期間

令和8年4月1日から

※令和9年3月19日まで実績報告

◆補助事業の例

◎山での林業体験を通した、間伐について学ぶSDGsツアーの実施

◎林野火災が発生した山林における二次遷移についての学習会の実施

◎名木を巡るモデルツアーの実施及びツアー実施のための環境整備

◆おわりに

事業内容の詳細については、県ホームページをご覧ください。

また、ご質問などあれば、県庁森林ノミクス推進課 森林利用・林工連携担当にお問い合わせください。

〔県森林ノミクス推進課〕

大切な森林を守るため山火事防止を

「火事一瞬火をつけないで気をつけて」

◆山火事の発生時期

山火事の発生は、雪解けが始まり、少雨で空気が乾燥し、季節風が強い春先に集中します。農作業を始める時期とも重なり、例年、田畑や自宅周辺での火の使用が原因での山火事が多発しています。強風時や乾燥時は炎が燃え広がりがやすく、初期対応が遅れると大規模な山火事被害に発展するおそれがあります。

◆山火事防止運動について

県では、「火事一瞬火をつけないで気をつけて」を山形県林野火災予防統一標語に、5月末までを山火事防止運動の実施期間とし、県内各地で関係機関が森林巡視や広報宣伝活動などを行います。

◆山火事を発生させないために

林内および森林周辺の宅地や農地、その他各種作業現場等においては、次のことに注意して、山火事防止に取り組みましょう。

① 枯れ草などのある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと。

② 強風時及び乾燥時には、たき火や火入れをしないこと。

③ やむを得ずたき火等の火を使用する場合は、火気のそばを離れず、使用後は完全に消火すること。

④ 火入れを行う際は、市町村長の許可を必ず受けるとともに、あらかじめ必要な防火対策を講じること。

⑤ たばこは、指定された場所で喫煙し、吸い殻は確実に消すとともに、投げ捨てをしないこと。

⑥ 火遊びはしないこと、また、させないこと。

特に強風時や乾燥時は周囲に燃え広がりがやすいため、屋外での火の使用を控えましょう。私たち一人一人の心がけが大切です。

◆おわりに

森林は水源のかん養や災害の防備機能、生活環境の保全・形成等の公益的な機能を有しています。

山火事が発生すれば、森林の持つこれらの重要な役割が一瞬で失われ、被害を受けた森林が回復するまでには、長い年月を要します。かけがえのない大切な森林を守るため、山火事防止に御協力をお願いします。

〔県森林ノミクス推進課〕



置賜建設株式会社

Oitama Construction



企業：置賜建設株式会社
森林所有者：学校法人九里学園
協定年月日：令和7年8月26日

企業 置賜建設株式会社
活動地 米沢市万世町桑山字長澤地内外
協定期間 令和12年3月31日まで
九里学園の学校林で、下刈りなどの活動を行い、環境教育のフィールドを作り、広く市民へ森林体験の場を提供していくことを目指します。

◆「やまがた絆の森づくり」とは
森づくり活動を通して、地域交流による里山地域の活性化や環境のために貢献したいという企業や団体が、森林所有者及び県と協定を結び、活動する取組みです。今年度、この趣旨に賛同いただいた2企業から、新たに活動していただくことになりましたのでご紹介します。

◆くのり協同和楽の森

やまがた絆の森協定締結式

◆ヤマト運輸の森



企業：ヤマト運輸株式会社山形主管支店
森林所有者：山形市
協定年月日：令和8年1月7日

◆おわりに

県では、今後もやまがた絆の森の普及を図り、森づくりの輪がより一層広がるよう、引き続き取組みを進めてまいります。

〔県みどり自然課〕

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部

Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 難波真悟

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 佐藤宏一

〒990-2473 山形市松栄1-5-41
TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109



緑の募金

緑の募金

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、身近な環境の緑化から、森林の整備、緑の普及啓発活動、森林環境学習など、さまざまな緑化活動に役立てられています。

緑あふれる美しいふるさとづくりに、私たちは取り組んでいます。



公益財団法人 もり

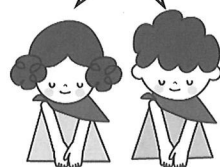
やまがた森林と緑の推進機構

理事長 今井 敏

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265 TEL 023-688-6633 FAX 023-688-6634

春の募金期間
4月1日～5月31日

ご協力をお願いします





みどりのページ

山形県緑の少年団活動 審査会で鶴岡緑の 少年団が最優秀賞！

山形県緑の少年団連盟が主催する令和7年度山形県緑の少年団活動審査会で、庄内ブロック推薦の鶴岡緑の少年団が最優秀賞を受賞しました。鶴岡緑の少年団は、同市内の小学4～6年生を対象とした募集式の少年団で、森林の美しさや身近な自然への関心を育みながら、地域の方々と協力して森林保全活動に取り組んでいます。

今年度は、JTの森鶴岡2025の活動に参加して松くい虫被害の学習や伐倒見学、クロマツの枝打ち作業に取り組みました。近年全国的な問題となっている海岸林の松枯れの現状に触れ、海岸林が地域を守る重要な防災・環境保全機能を持つことを学びました。また、油戸「魚の森」の森づくり活動では、アキグミ2本とカシワ18本の植栽やヒラメの稚魚1,500尾の放流を経験し、ナラ枯れ被害で減少したナラの木を蘇らせる「どんぐりの森救出大作戦」では育苗用の竹ポットづくりに挑戦するなど、様々な活動を通じて、子どもたちは森と海とのつながりに向き合いました。さらに、街頭での緑の募金活動にも積極的に取り組み、緑化や森づく

り活動の普及啓発にも大きく貢献しています。

以上のような活動が高く評価され、この度の受賞につながりました。

なお、優秀賞は、白鷹町緑の少年団、戸沢村みどりの少年団、白岩小学校緑の少年団（寒河江市）が受賞しました。最優秀賞を受賞した鶴岡緑の少年団は、11月に和歌山県で開催される全国緑の少年団活動発表大会（全国育樹祭併催行事）に推薦される予定です。



「JTの森鶴岡2025」での
枝打ち作業

「緑のふるさとづくり セミナー」を開催

3月3日（火）、山形ビッグウェイングにおいて、緑と森づくり支援事業研修会「緑のふるさとづくりセミナー」を開催しました。地域活動による緑化の推進や森林環境の保全について広く普及啓発するとともに、

関連する助成事業について周知を図るため毎年開催しているもので、緑化・森林ボランティア団体の方々など約80名からご参加いただきました。

◆第1部 講演

秋田県横手市より、森林インストラクターの酒井浩氏をお招きし、「今、伝えたい里山の魅力」と題して講演いただきました。秋田県森林インストラクター会の会長も務めている酒井氏は、30数年間にわたる公立小中学校での教員経験を生かし、主に子どもたちや親子を対象とした自然観察会の企画・実施や里山ガイドなどでご活躍されています。



酒井氏の講演

今回の講演では、年間約100日にも及ぶという豊富な実践経験をもとに、特に子どもたちの自然体験がいかに大切であるか、里山のおもしろさを

どう伝えていくかなど、具体的に話していただきました。また、クマへの対応についても、幾度となく「クマは大丈夫か？」と聞かれていると明かしつつも、しっかりと対策を取りながら活動を続けられていることをお話しいただきました。昨年の秋は、山形県内でもクマ出没を警戒して野外活動を中止する事例が相次ぎましたが、実践に基づく酒井氏のお話には説得力があり、クマを正しく恐れて活動が続けようという勇氣づけられた思いでした。

ユーチューブ



◆第2部 事例紹介

助成事業の活用事例について、成安癒しの川（白川）を守る会（山形市）から発表していただきました。同会は、山形新聞・山形放送の最上川さくら回廊事業で地区内に桜が植樹されたことを契機に設立され、除草や病害虫防除など桜公園の維持管理活動を継続してきました。令和6年度からは森林環境学習の推進にも取り組んでおり、地域の子ども育成会などを巻き込んだ活動を紹介いただきました。観桜会に合わせてパイオマスエネルギーである木炭を使ってバームクーヘンを作ったり、公園に設

置する木製ベンチや鳥の巣箱を作ったりすることで、子どもたちの地域行事への参加意識の高まりにもつながっているそうです。

◆第3部 助成事業ガイダンス

令和8年度の緑の環境づくり推進事業、緑の募金公募事業の募集概要等について担当者から説明しました。当機構では、今後も緑豊かなふるさとづくりを推進していくため、様々な支援や普及啓発に取り組んでいきます。

里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金事業 活動報告会

3月12日(木)、山形ビッグウェーリングにおいて、標記事業の活動報告会を開催しました。本交付金は、地域住民らが協力して里山林を整備し、その資源を活用する活動を支援する林野庁の助成事業で、当機構が山形県における地域協議会を担っています。当日は、地域協議会委員やアドバイザーの皆様をはじめ、関係行政機関の方々、各活動組織のメンバー、次年度活動予定の団体、森林ボランティア団体の方など、約60名のご参加をいただきました。

3ヶ年の活動計画が区切りを迎えた次の3団体から、取組みの成果について発表していただきました。



会場の様子

①内原里山保全を楽しむ会(南陽市)
②西根森づくりの会 (長井市)
③山口里山を楽しむ会 (白鷹町)

3団体とも、限られた発表時間の中でしたが、たいへんわかりやすく、また思いを込めて発表してくださいました。活動を始めたきっかけや実際の作業の様子、工夫した点、苦労した点、今後の悩みや展望などをお話しいただき、参加者の皆さんにも大いに参考になったことと思います。質疑応答も活発に行われました。このような集まりを機に、里山で活動する皆さんが横のつながりをさらに広げ、また深めて、それぞれの活動に生かしていただくことを期待しています。

地域協議会委員やアドバイザーの皆様からも、3年間の丁寧な取組みに敬意を表する、楽しく活動するために安全作業を改めて心がけてほしい、山との関わりは地域との関わりという思いはとても大切、新たな3ヶ年計画を立てて引き続きがんばってほしい、などのご講評と励ましの言葉をいただきました。

取組みについてのご相談は随時受け付けています。関心のある方は、お気軽にお問い合わせください。

緑の募金にご協力を お願いします！

やまがた森林と緑の推進機構では、地域の人々の身近な緑化活動や次世代を担う子供たちが参加する森林体験活動などを支援するため、緑の募金への協力を呼び掛けています。令和8年度も「緑の募金で進めよう！SDGs」をスローガンに県内全域で募金活動を展開し、特に4月15日から5月14日までの期間を【みどりの月間】として「緑の募金」を広く県民の皆様周知する活動を行っていますので、より一層のご協力をお願いいたします。

なお、4月16日の令和8年度緑の募金街頭キャンペーン出発式を皮切りに、県内各地においても街頭での

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま

(R.8.2.1~3.31)

(やまがた森林と緑の推進機構取扱い分)

青山建設グループ緑の募金の輪を広げる会、アシード(株)、M木工、小国町森林組合、北庄内森林組合、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、(株)グリーンバレー神室振興公社、(株)佐々木建設、(株)新庄・鈴木・柴田組、ダイドードリンコ(株)、(有)滝口ペンディング、(株)山形環境エンジニアリング、米沢地方森林組合、(株)読売蔵王

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

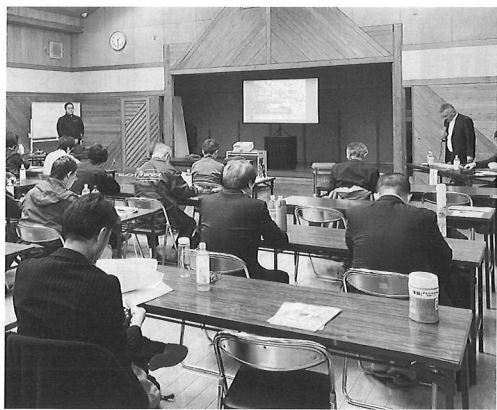
募金活動を行いますので、お近くで募金活動をお見かけの際は、ぜひご協力をお願いいたします。
(「公財」やまがた森林と緑の推進機構)

山形県分収林事業 推進協議会の開催

◆協議会の概要

令和8年3月10日に、県内の森林組合と公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構が構成する山形県分収林事業推進協議会において、当機構の分収林事業森林整備に係る取組み状況や次年度計画の報告をしました。

また、岩手県久慈市で林業事業体を営む有限会社谷地林業の代表取締役である谷地譲氏（大正5年創業の木炭製造業を起源とする同社の4代目）をお招きし、講演を行いました。



協議会の様子

◆分収林事業について

当機構の分収林は、10年齢級の林分

が最も多く、全体の23%を占めており、間伐の適期にあります。このため、間伐材、A・B材からC・D材までの有効活用が求められています。

平成24年度からは搬出間伐事業に取組んでおり、生産目標の達成と有利販売を確実にするため、A・B材については山形県森林組合連合会に委託して販売しています。

◆搬出材について

令和7年度までに当機構が実施した搬出間伐における搬出材の内訳は、約89%が集成材用の2m材となっています。

令和7年度は、県森連への委託による搬出材積の総量約4千7百m³のうち、約75%の約3千5百m³を集成材工場へ販売しました。

また、C・D材の約4千2百m³は、

年 度		令7実績	令8計画
間伐事業量 (ha)		105	151
県森連委託	集成材(m ³)	3,545	—
	輸出材(m ³)	460	—
	A材他(m ³)	751	—
	計	4,756	6,020
その他	C D材(m ³)	4,291	4,515

表-1 令和7年度の実績と
令和8年度の計画

当機構から森林整備事業の受託者が買取り、県内の木質バイオマス発電所等へ供給しています。

◆講演について

木材生産の効率化と森林資源の有効活用について、「谷地林業の挑戦―地域に根ざした林業経営の実践―」と題して、有限会社谷地林業の代表取締役谷地譲氏に講演していただきました。

谷地林業では、森林整備や素材生産に加え、高品質な木炭（黒炭）や木質チップの製造・販売、土木・造園工事など幅広い事業を展開しており、バイオ炭の生産やフランスへの輸出など、地域資源を活かした持続可能な森林経営を実践しています。

谷地氏は、自らを「木炭大王」と名乗り、木炭の魅力発信と価値向上にも積極的に取り組まれています。

講演では、こうした木炭製造技術を基盤とした製品開発やブランド展開に加え、輸出や異業種連携による販路拡大、林地残材のチップ化やバイオ炭の製造販売など、未利用資源の有効活用と環境負荷の低減を両立する取組みについて紹介されました。

受講者は、森林資源の新たな可能性とその利活用の方向性について理解を深める機会となりました。

今後も谷地氏は、地域資源の有効活用のため独自の発想力を発揮し、工夫を重ねながら持続可能な森林づくりに積極的に取り組んでいくそうです。

◆おわりに



講演を行った 谷地 譲 氏

今回の協議会は、分収林事業の現状や課題、今後の目標を共有し、関係者間で認識を深める良い機会となりました。

また、講演を通じて、地域資源を活かした事業展開や新たな展開の方向について理解を深めることができ、有意義な内容となりました。

今後も計画的な森林整備を推進するとともに、木材の安定供給と利用促進に努め、林業の持続的な発展に取組んでまいります。

引き続き、当機構の取組みに御理解と御協力をお願いいたします。

〔公財〕やまがた森林と緑の推進機構



国林から

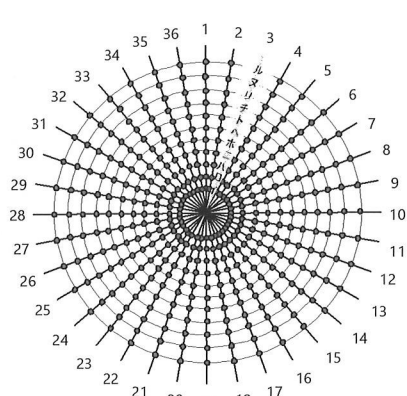
スギの特定苗木を用いた 林分密度実験林の設定について

庄内森林管理署において、東北森林管理局管内で初めての取組みとなる「スギ特定苗木を用いた林分密度実験林」を設定したので紹介します。

はじめに、特定苗木とは、成長に優れ、花粉量が少ないなど特に優良な種苗を生産するための種穂の採種に適する樹木として農林水産大臣が指定する「特定母樹」から採取した種穂から育成された苗木のことで、令和7年度から東北森林管理局管内では初めて山形県から特定苗木の配布が始まるなど、特定苗木の供給体制が徐々に整いつつある状況となっています。そこで、今後普及が見込まれるスギの特定苗木を用いて、東北地方においては前例のない円形の林分密度実験林（図－1）を設定することにより、植栽密度の違いによる植栽木の生長過程や広葉樹の侵入、枝の枯れ上がり方、成林後の材積、根曲りや雪害の影響等の違いが展示的に分かるような林分を造成することになりました。このことにより、スギ特定苗木を用いた木材生産

や森林の持つ公益的機能の向上、最適な植栽密度や管理方法等について科学的に探究することが期待されます。

実験林の概要は、山形県酒田市長青沢字熊沢国有林1072林班ぬ1小班内に2か所、①面積0.26 ha植栽本数396本、②面積0.18 ha植栽本数360本（地形状況により、植栽を10列）を設定しました。実験林の植栽配置については、植栽を円形に11列、放射方向に36列設定し、植栽密度はha当たり376本から14,440本までの植栽密度となります。（図12）植栽は令和7年度に行いましたが、記録的な高温と少雨の影響と



（図－1 植栽配置図）

円周の番号	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル
円周率径(m)	4.63	5.65	6.67	8.00	9.60	11.52	13.82	16.58	19.90	23.88	28.66
苗間放射方向(m)	0.93	1.11	1.33	1.60	1.92	2.30	2.76	3.32	3.98	4.78	-
苗間接線方向(m)	0.81	0.97	1.16	1.40	1.67	2.01	2.41	2.89	3.47	4.17	5.00
1本当たり占有面積(m ² /本)	0.7	1.0	1.4	2.1	3.0	4.3	6.2	8.9	12.8	18.5	26.6
ha当たり植栽本数(本/ha)	14,440	10,000	6,944	4,823	3,349	2,326	1,615	1,122	779	541	376

（図－2 円周ごとの植栽密度）

今後は、定期的に調査を重ね、植栽密度（本数/ha）の違いが森林の成長、材積、形質（木の形状）、そして間伐コストに及ぼす影響を長期的に把握し、適切な管理方法（低コスト化・高品質材生産）を決定するためのデータとして活用を図ってまいります。

〔庄内森林管理署〕



（写真－1）林分密度実験林

土壌が褐色森林土（粘土集積層）などの条件が重なり、苗木が559本、植栽木の74%が枯れてしまい、11月に改植してようやく設定することができました。（写真－1）

令和8年度森林研究研修センターの研修計画について

【はじめに】

森林研究研修センターでは、「やまがた森林ノミクス」を推進する人材育成のため、各種研修を実施しています。令和8年度の研修計画を紹介します。

【主な研修の概要】

令和8年度は、7年度に引き続きICT等を活用した新たな林業技術の習得を図る研修を実施するほか、林業従事者や森林・林業の技術職員を対象に技術向上を図る研修を数多く実施します。現時点での主な研修の概要は下表のとおりで、それぞれの研修の詳細が決まり次第お知らせします。多くの方々の御参加をお待ちしています。

〔森林研究研修センター〕



令和7年度の技術者技術向上研修（ICT技術編）実施状況

【令和8年度の主な研修の概要】

研修名	開催月 【予定】	場所	対象者	内容
林業技術者技術向上研修（作業道作設編）	6月 （4日間）	試験実習林（西川町）	森林作業道作設オペレーター（初級者）	・簡易で丈夫な森林作業道を作設できる技術者の養成
林業技術者技術向上研修（ICT技術・林業機械編）	9月 （2日間）	試験実習林（西川町） 現地	林業事業体、森林施業プランナー、青年林業士等	・ICT等情報化技術を用いた森林調査作業システムの構築 ・林業機械の基本操作技術の習得
青年林業士スキルアップ研修	8月 （1日間）	現地	青年林業士	・現地視察 ・農林大学校学生との意見交換
林業士・指導林家研修	10月 （1日間）	現地	指導・青年林業士、指導林家	・現地視察 ・新たな森林、林業に関する知識や技術の取得
林業士養成研修	1月 （2日間）	研修館（寒河江市）	林業士候補者	・山形県林業士（青年・指導）認定に向けた養成研修
森林技術職員等基礎研修（刈払機）	6月 （1日間）	試験実習林（西川町） 現地	市町村・県職員	・刈払機取扱作業員に対する安全衛生教育
森林技術職員等基礎研修（チェーンソー）	10月 （3日間）	研修館（寒河江市） 試験実習林（西川町）	市町村・県職員	・チェーンソーによる伐木等の業務に係る特別教育
森林技術職員等基礎研修（新任者）	5月、12月 （2日間）	研修館（寒河江市） 現地	県職員	・森林行政の推進に必要な基礎的な知識の習得 ・造林、森林保護の実務
森林技術職員等技術研修①～⑤	5月～2月 （5日間）	研修館（寒河江市） 現地	市町村・県職員	・①造林、②林業機械 ③林業経営、④森林保護 ⑤特用林産
森林技術職員等技術研修（スマート林業基礎・応用）	6月、8月 （4日間）	試験実習林（西川町） 現地	市町村・県職員	・ICT技術を活用した林業分野の知識、技術の習得



フォレスト通信

●農林大学から
●専門職大学

未来のフォレスターたち



◆附属農林大学校林業経営学科

林業経営学科は平成28年4月に設立され、この4月で10周年を迎えました。今年度は新たに3名の第11期生が入校し、森林・林業について学習していきます。今回は、本学科で学ぶ学習科目や取得できる資格と基本目標について紹介します。

◇多岐にわたる学習科目と資格取得

2年間で学ぶ科目は「造林・育林」「林業機械」「森林経営」など17科目と多岐にわたります。また、取得する資格は、チェーンソー、刈払機、高性能林業機械（伐木等機械、走行集材機械、簡易架線集材装置）、機械集材機特別教育、小型移動式クレーン、玉掛、小型車両系建設機械（3t未満）、車両系建設機械（3t以上）、不整地運搬車、フォークリフト、赤十字救急法基礎講習、赤十字救急救急員、はい作業従事者安全教育、林業技能検定（3級）があり、さらに森林施業プランナー（特別1次）に挑戦する学生もおります。

農林大で学生は、森林管理や林業に必要な実践能力を身につけるため、

前述した科目に関する知識と技術を1040時間に及ぶ実習で有機的に関連させながら学びます。これらの学びを通して、地域の森林・林業を担うリーダーとして、地域の森林経営をプラニングし、林業を通して社会に貢献できる人材を育成することが林業経営学科の目標です。

〔附属農林大学校〕



入校式で撮影

◆専門職大学森林業経営学科

開学から3年目を迎え、森林業経営学科では独自の個性的な雰囲気を感じられるようになりました。4月には3期生が入学し、1期生から3期生までの22人の学生は、日々講義や実習に励んでいます。

2年生では「臨地実務実習Ⅰ」が始まり、森林組合や木材加工、森林測量、防災関係などの団体・企業において生産管理等に関する基礎的な内容を中心に実習に取り組みます。また、講義でも生態系サービスや木質科学、森林情報学などの専門科目のほか、幅広い学びをめざす展開科目も充実し、さらに発展したカリキュラムマップとなります。

3年生では、昨年度の実習成果を踏まえ、事業計画や経営管理の視点から実践的な知識や技術を習得する「臨地実務実習Ⅱ」が実習の中心となります。また、専門科目の講義では、森林環境政策や森林経営管理など、1年生、2年生で学んだ専門知識を基盤に、よりステップアップした内容となります。さらに、3年生では就職活動を開始します。就職は、大学におけるキャリア形成の評価につながる重要な要素です。これまでの学びが、将来希望する職業に向け



学生と教員との交流から（森林リトリート）

たキャリアデザインの第1歩につながるよう、学生とのコミュニケーションを大切にしたいと思います。

そのほかにも、今年度は、昨年度本学とIMOU（国際交流協定）を締結したコラド州立大学との交流も本格化し、国際社会に対応した人材育成もさらに深化します。

森林の恵みを私たちの暮らしとつながる多様なアイデアは、新たなビジネスにつながる大きな可能性を秘めています。国際的な視点をもとに、地域の森林が持つポテンシャルを最大限に生かすことができる『グローバル』な技術者の育成を進めていきます。

〔東北農林専門職大学〕

山形県森林総合監理士会について

◇はじめに

森林に関する高度な専門知識を持ち、地域の森林づくりを総合的にコーディネートするプロフェッショナルとして、国が認定する「森林総合監理士（通称・フォレスター）」という資格があります。

令和6年に県内の有志により「山形県森林総合監理士会」が設立され、自主的に活動を展開しておりますので紹介させていただきます。

◇森林総合監理士とは

平成23年に策定された国の「森林・林業基本計画」では、森林・林業の再生に向けた取組を推進していくため、◇施業の集約化、路網の整備、必要な人材の育成を柱とする施策の基本的な方向が位置づけられました。この際に創設されたのが「森林施業プランナー」と「森林総合監理士」の資格制度です。

前者が森林所有者への合意形成から現場の収支管理、集約化施業を担う経営の中核人材であるのに対して、「森林総合監理士」は広域的・長期的な視点で地域の森林の整備・保全のランドデザイン（構想）を描き、

公平・中立な立場で関係者の「合意形成」を図り、制度や予算を活用して地域林政を具体的に「実現」する人材として位置付けられています。林業普及指導員資格試験の地域森林総合監理区分に合格・登録することで取得でき、県職員だけでなく、国、市町村の職員、民間の方も取得可能です。

県外では民間フォレスターとして活躍されている人もおり、会社組織等を立ち上げ、市町村からの委託を受けて林務行政を支援するなどの先進事例も見られます。

◇山形県森林総合監理士会について

令和8年3月10日現在、森林総合監理士の全国での登録者数は1,918人です。そのうち、山形県を活動地域とするのは110名（林野庁職員や民間等を含む）です。しかしながら、森林総合監理士として活躍できる場は普及担当等に限られ、専門性を活かしたいという隠れフォレスターが多いのが実情です。

こうした背景から、森林総合監理士として能力の研鑽に努めるとともに、その専門知識と経験を生かし、

本県の森林・林業・木材産業の持続的な発展を実現することを目的に本会を設立しました。本会には山形県を活動地域としている森林総合監理士であれば入会可能です。

活動の主な内容としては、自己研鑽、会員間の相互協力、次世代の森林総合監理士の育成等です。

活動内容の詳細については、会のホームページに掲載されていますが、令和6年度は伐木研修や市町村森林整備計画の会独自の様式の作成、勉強会として東北農林専門職大学の小山敢准教授（元鳥取県職員、森林総合監理士）をお招きし、鳥取県での森林総合監理士による林業専用道の作設支援についての事例を学びました。

続く令和7年度には、東北大学名誉教授の清和研二氏から「自然に倣う林業」として、スギ人工林を強度間伐によって「針広混交林」へ誘導することにより、森林の水質浄化や葉量増加による光合成生産力の向上、さらには広葉樹の良質材の生産など、自然の摂理に倣った持続可能な豊かな森づくりの方法について学びました。また、森林所有者のための森林計画に関する手続きやQGISの活用事例についても情報発信を行いました。

◇おわりに

近年、森林経営管理制度の運用など、森林の「経済的価値」と「環境的価値」を両立させた持続可能な森林づくりを行うことが求められており、森林を俯瞰できる森林総合監理士への期待は一層高まっています。全国的にも「日本フォレスター協会（仮称）」の設立に向けた動きがあるなど、新たな局面を迎えています。今後とも本会の活動に対し、皆様のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



山形県森林総合監理士会HP
QRコード

〔山形県森林総合監理士会〕



清和先生を講師に迎えての勉強会

「村山地域の山火事防止の取組について」

「村山地域山火事防止啓発ウィーク」を実施

◆はじめに

近年、全国各地で大規模な山火事が発生しています。県では、山火事が発生しやすい4月から5月末日までを山火事防止運動期間とし、啓発活動を行っています。

村山総合支庁では、山火事防止活動期間中に「村山地域山火事防止啓発ウィーク」を実施しました。

◆実施状況

期 間 令和8年4月14日（火）

4月20日（月）

場 所 村山地域全域

参加者 管内市町、管内消防本部、管内森林組合、山形森林管理署、やまがた森林と緑の推進機構、山形県木材産業協同組合、村山総合支庁

活動内容 参加する30団体がそれぞれ所管する地域において、巡回等により広報活動を実施しました。

計30団体

◆おわりに

一人一人の心掛けが山火事防止につながります。これからも空気が乾燥し、山火事が発生しやすい時期が続きますので、火の取り扱いには十分にご注意願います。

〔村山総合支庁森林整備課〕



巡回活動の様子

に西村山地域、北村山地域を巡回・広報しました。
春の行楽シーズンにかけて入山者が増え、山火事の危険性が高まります。今後も巡回・広報により、地域住民の山火事防止意識が向上し、山火事の発生が無くなるよう取組を続けてまいります。

まち 都市に森をつくる®

木は、空気中の CO₂を吸収・固定化する再生可能な資源です。
接合金物工法「KES 構法」や木質耐火部材「COOL WOOD」、
曲線・ひねり部材「FREE WOOD」など、最先端の木造建築技術で
人と地球環境にやさしい「木造都市®」の実現に向け
創造・革新・挑戦を続けています。

Shelter

本 社 / 山形市松栄1-5-13 tel. 023-647-5200
東京支社 / 港区芝5-36-7 9F tel. 03-5418-8800
www.shelter.inc



世界最高高さ 110m 地上24階建て 純木造超高層ビルパース

“美しい森林の風景を守るために” 森林経営管理をサポートします

- 市町村の森林・林業行政の体制支援
- 資源量調査
- 森林GIS等、システム整備
- 森林経営計画作成促進の支援
- 路網整備の助言・指導
- 関係団体とのマッチング
- 森林境界の明確化
- 森林情報の収集及び整備
- 森林サイクルのマネジメント



一般社団法人 山形森林調査協会

〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1
TEL.0237-85-8233 FAX.0237-85-8233
E-mail: yfi@kfa.biglobe.ne.jp

スマート林業推進に向けた取組み

◆はじめに

近年、全国的にスマート林業の推進が図られており、本県では、森林クラウドシステムの導入や航空レーザ測量・解析による基盤情報の整備、ICT技術の導入に係る支援等の取組みが行われてきました。

新たな技術や機材の導入にあたっては、その効果とコストを把握した上で、地域や林業事業体の実状に応じたものを選択することが重要となりますが、導入の効果や活用先は幅広く、実務上の活用イメージがしにくい状況にあります。

また、GIS（地理空間情報システム）は、スマート林業の基盤となるツールですが、GISの環境整備や使用できる技術者の育成等は、多忙な業務の中で行うことは困難であるのが実情です。

そこで、スマート林業の基盤ツールとなるGISの実務研修としてQGIS研修の開催と、スマート林業の初めの一步を踏み出すための方策を探るべく、スマート林業導入検討会を開催しましたので報告します。

◆QGIS研修

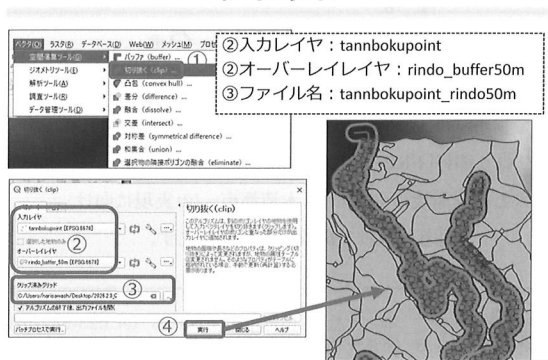
一般的にGISとは地図と属性情報を一元的に管理し、空間解析ができるシステムとなります。林業分野においては森林計画図の確認や施業情報の管理等に活用されており、近年は航空レーザ測量の解析成果をはじめとする高精度なデータを扱うためのツールとしても必要不可欠なものとなっています。

今回の研修で使用したQGISは、GISのフリーソフトであり、誰でも無料で自由に使うことができるものであり、導入する上で、PCの準備を除き、コストが発生しない特徴があります。

研修はGISの基礎とQGISの操作演習の内容で、2月3日（火）と2月16日（月）の2回開催したところ、林業事業体や市町村職員、県職員で延べ51名の参加がありました。基本操作から空間解析機能、GPSやGNSS取得データの活用等を題材に、実務に活かせる内容としたところ、参加者からは継続的な研修の実施の要望や業務での具体的な活用方法について問合せを受ける等、ス

スマート林業の基盤づくりとして着実な一步を踏み出すことができました。

クリップ



QGISにおける空間解析機能の説明

◆スマート林業導入検討会

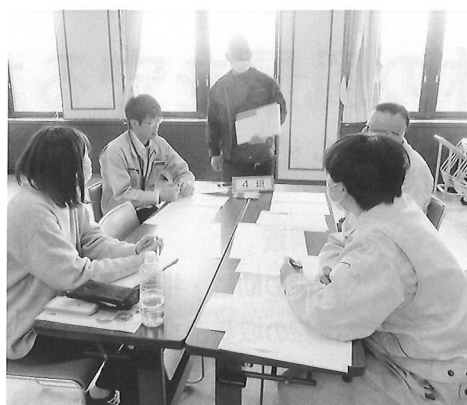
検討会は3月6日（金）に24名の参加者で実施しました。

初めにスマート林業の取組み事例を、米沢地方森林組合の四柳徹也氏、おきたま林業株式会社の芳賀拓人氏、有限会社中津川エフエフの林剛平氏の3名から報告いただき、スマート林業の導入イメージを持っていただきました。

その後、4班に分かれ、スマート林業関連技術の導入案を作ること、ゴールとしたワークショップを行ったところ、GISによるデータ基盤

の整備やドローンによる省力化等、すべての班で実現可能性の高い導入案が検討されました。また、実現に向けた課題として、多くの班で人材育成が重要であるとの考えが述べられました。

参加者からは、参加型でスマート林業への理解や考えが深まったとの感想があり、スマート林業推進に向けた効果的な取組みであったと考えられます。



ワークショップの状況

◆おわりに

様々な技術や機材を導入すればスマート林業等が実現できるものではなく、業務にどのように落とし込むかが重要となります。引き続きスマート林業推進に向けた様々な取組みを実施してまいります。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

「庄内地域木材資源需給拡大 コンソーシアム会議」 研修会の開催

◇はじめに

令和8年3月3日、庄内総合支庁講堂において「庄内地域木材資源需給拡大コンソーシアム会議」研修会を開催しました。本研修会は、戦後にスギを中心とした人工林が広く造成されたことにより、林業経営に適さない森林が生じている現状を踏まえ、今後の森林整備のあり方について理解を深めるとともに、持続可能な森林づくりに向けた情報共有と課題解決策の検討を目的として実施したものです。

◇研修内容について

講師には、森林総合研究所企画部長の佐藤保先生をお迎えし、「人工林再生と次世代の森づくり」をテーマにご講演をいただきました。講義は四つの柱から構成され、①森づくりの理念、②広葉樹林化への考え方、③天然更新の具体的事例、④更新促進のための工夫について、示唆に富んだ解説をいただきました。佐藤先生からは、条件の悪い針葉樹人工林を針広混交林へ誘導する際、天然力を活用できる点や管理コストが

比較的安い点が挙げられるが、実際には決して容易な作業ではなく、管理費用が必ずしも安く抑えられるわけではない点に留意する必要があります。

◇参加者からの意見

参加者からは、「とても分かりやすい説明で内容がよく理解できた」、「貴重な講演で今後の業務の参考になる」といった意見が寄せられ、次世代の森づくりを推進するうえで有益な内容であると評価されました。また、質疑応答でも、具体的な課題や今後の取り組みに関する活発な意見交換が行われ、特に松くい虫被害が拡大している庄内海岸林の再生に関して重要な助言をいただきました。

◇最後に

庄内総合支庁では、今後も本研修会のような研修や情報交換の場を適宜開催し、森林・林業・木材産業が直面する諸課題に的確に対応してまいります。また、行政や林業関係者が連携して課題を共有し、庄内の森林が将来にわたり公益的機能を維持・向上するとともに、豊かな自然と林業を次世代へ確実につないでいくことを目指します。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

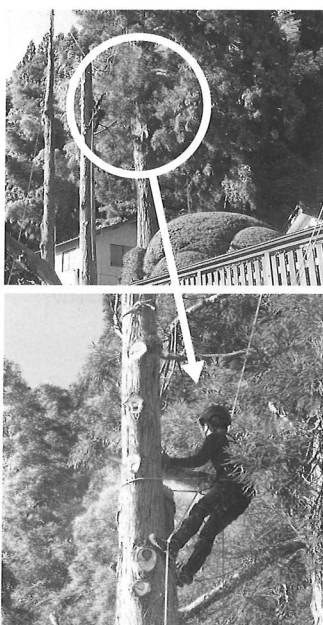
鼠ヶ関ツリーサービスが 庄内地域農林水産業 若者賞を受賞

◇はじめに

このたび、庄内地域の農林水産分野で顕著な活躍をした若者を表彰する「庄内地域農林水産業若者賞」林業部門に、鼠ヶ関ツリーサービス（平均年齢33歳、技術者3名）が選ばれ、同社の高度な特殊伐採技術と地域課題解決への貢献が高く評価されました。

◇業務について

同社は、高所作業車が入れない現場でロープワークを駆使し、安全かつ確実に伐採を行うことを得意としています。松くい虫被害木の除去では、建物や送電線を避けながら丁寧に伐採を実施。家屋に近接する場合は、樹上で枝をつり下ろす「リギング」で、限られた作業スペースにおいて周囲への影響を最小限に抑えて処理しています。依頼者からは「どうやって切るのかと心配したが、お墓に傷一つなく、きれいに作業してもらえて本当に安心しました。ありがとうございます。」



伐採の様子

「た」と感謝の声が寄せられています。安全と景観保全の両面で地域に貢献しています。

◇最後に

表彰式では、故郷・鼠ヶ関の「鼠」の字の下に「樹木」を表した揃いの半纏を着用して出席。荒木支庁長から賞状と副賞が贈られました。同社には「挑戦心を常に持ち、一伐入魂で仕事をする」というモットーを忘れず、特殊伐採技術のさらなる研鑽と若手技術者の育成、地域リーダーとしての役割を期待します。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

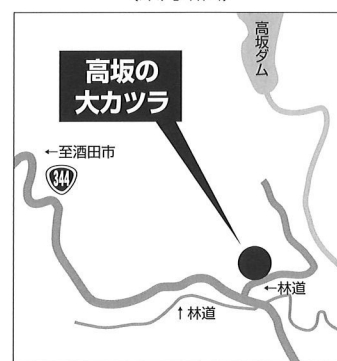


表彰式の様子

山形県の古木・名木 146
高坂の大カツラ
真室川町大字差首鍋



(案内略図)



最上地域には巨樹巨木が多く、特にカツラの大木が多くあります。が、いずれもアップローチが悪く、見に行くのが大変です。道の決壊でたどりつけないカツラもあります。

真室川町高坂の大カツラは、青沢越えの国道344号から高坂ダムへ向かう林道へ入り100mほどの、林道の脇の急斜面の上であり、容易に見に行くことができません。天然記念物に指定されていませんが、目通り幹周16・3m、樹高約20mの堂々たる巨樹です。主幹は失われ、カツラの巨木によくある千本カツラの樹形となっています。急な斜面の上に立っているため、その崖を登らなければなりません。トラロープが下がっていますが、トラロープには頼らないで登った方がよいと思います。下りは林道に向かって右の方にかすかな踏み跡があるので、そこを下ってください。

〔山形県森林協会〕

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部では下記のとおり講習会を実施します。

◆「刈払い作業の安全衛生教育講習会」 学科及び実技で1日の受講

◇日時：5月15日(金)、6月8日(月)、7月6日(月)、8月26日(水)
◇会場：県森林研究研修センター(寒河江市) ◇定員：各30名

◆「伐木等の業務に係る特別教育講習」 学科(2日間)及び実技(1日)の計3日間の受講

コース	学 科	実 技	定 員	会 場
①	5月21日(木)	5月25日(月)	30名	・学科：「協同の杜」JA研修所(山形市) ・実技：県森林研究研修センター実習林(西川町沼山)
②	及び22日(金)	5月27日(水)	30名	
③	6月25日(木)	6月29日(月)	30名	
④	及び26日(金)	7月1日(水)	30名	
⑤	8月4日(火)	8月6日(木)	30名	
⑥	及び5日(水)	8月7日(金)	30名	
⑦	9月30日(水)	10月2日(金)	30名	
⑧	及び10月1日(木)	10月5日(月)	30名	

◆「車両系木材伐出機械の運転業務に係る特別教育講習」 学科及び実技(受講科目等により講習時間が異なる)

◇学科講習：8月28日(金)及び31日(月)の2日間 ◇会場：「協同の杜」JA研修所(山形市) ◇定員：60名
◇実技講習(ワイヤロープ)：9月2日(水)、9月3日(木) ◇会場：県森林研究研修センター実習林(西川町沼山)
◇実技講習(作業のための装置の操作等)：9月7日(月)～9日(水)の3日間 ◇会場：新庄市内

◆「木材加工用機械作業主任者技能講習」 学科のみ2日間の受講

◇日時：令和8年12月16日(水)～17日(木) ◇会場：県森林研究研修センター(寒河江市) ◇定員：20名

◆「能力向上教育」 学科のみ1日の受講

◇木材加工 日時：令和8年11月27日(金) ◇会場：県森林研究研修センター(寒河江市) ◇定員：30名
◇林業安全推進 日時：令和9年1月27日(水) ◇会場：県森林研究研修センター(寒河江市) ◇定員：30名

◆チェーンソーを用いて行う伐木等業務従事者安全衛生教育「再教育」 5年ごとの受講(学科のみ)

◇日時：6月3日(水)、1月20日(水) ◇会場：県森林研究研修センター(寒河江市) ◇定員：各30名

◆作業計画作成安全衛生教育 学科及びグループ演習1日の受講

◇日時：令和8年11月4日(水) ◇会場：「協同の杜」JA研修所(山形市) ◇定員：30名

【お問合せ先】林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部 TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811